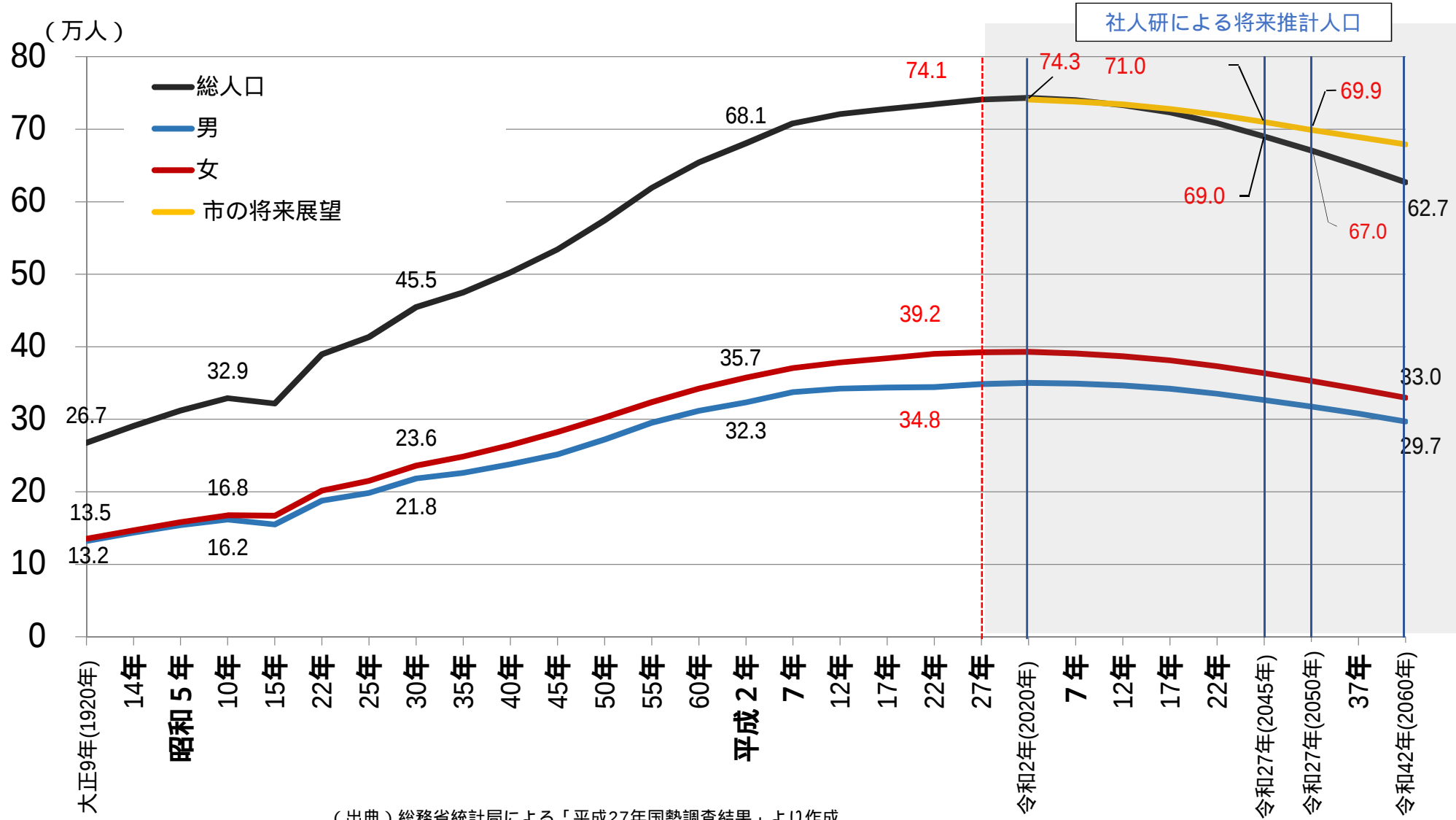


人口動態の現状認識について

熊本市しごと・ひと・まち創生総合戦略検証委員会資料
令和元年 8 月 7 日

- 1.熊本市の人口推移及び将来推計人口
- 2.熊本市の年齢3区分別人口の割合
- 3.自然増減と社会増減の影響
- 4.熊本市の社会増減
- 5.熊本市の自然増減
 - 出生数と合計特殊出生率の推移
 - 出生数と死亡数の推移
 - 年齢別出生率の変化
- 6.校区別の老年人口割合

1.熊本市の人口推移及び将来推計人口

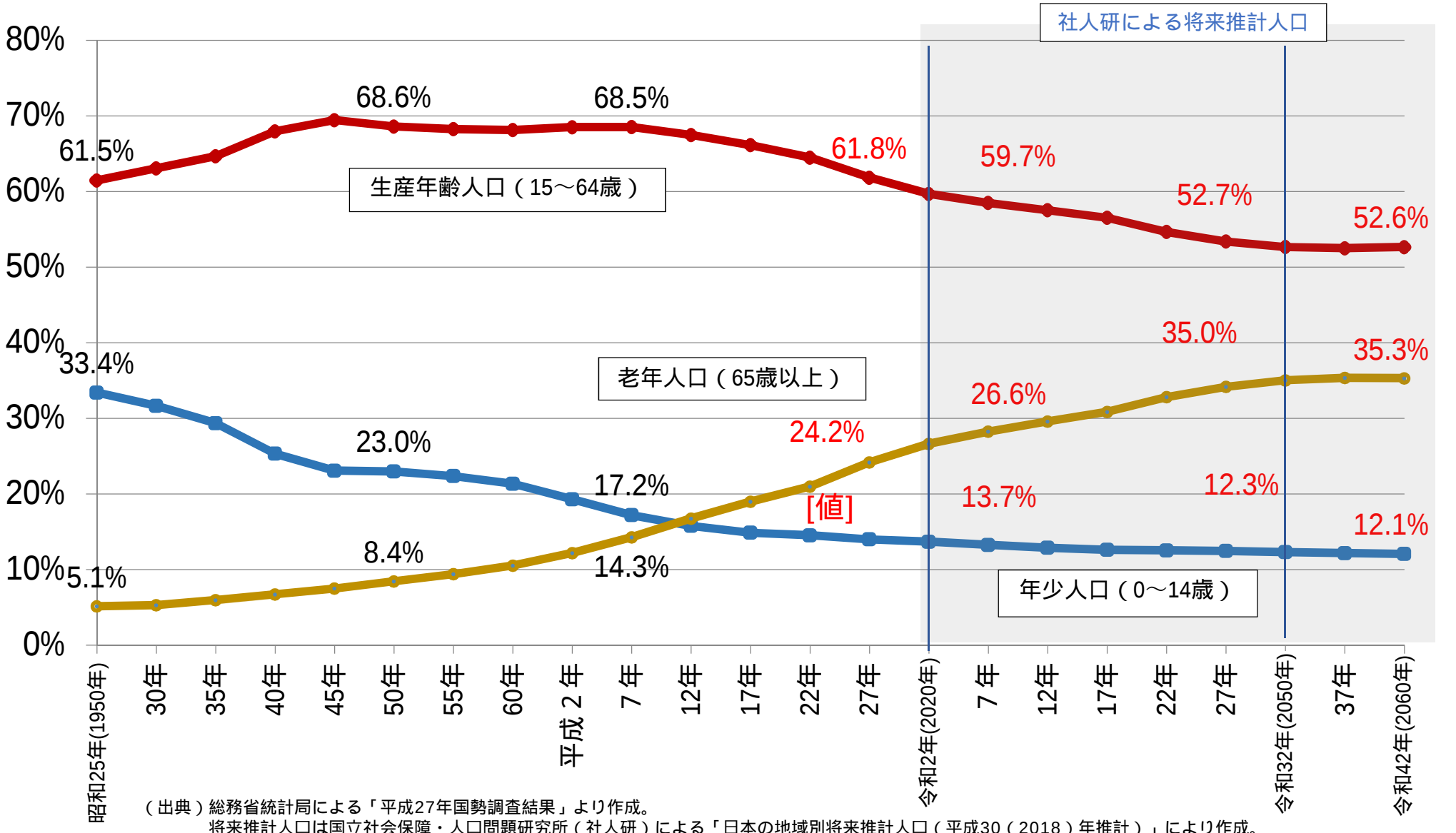


(出典) 総務省統計局による「平成27年国勢調査結果」より作成。
将来推計人口は国立社会保障・人口問題研究所(社人研)による「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」により作成。

最新の社人研による将来推計では、令和2年(2020年)をピークに総人口は減少し、令和27年(2045年)頃に70万人を下回るが、市の将来展望では、令和32(2050年)頃まで総人口は約70万人程度を維持するとしている。

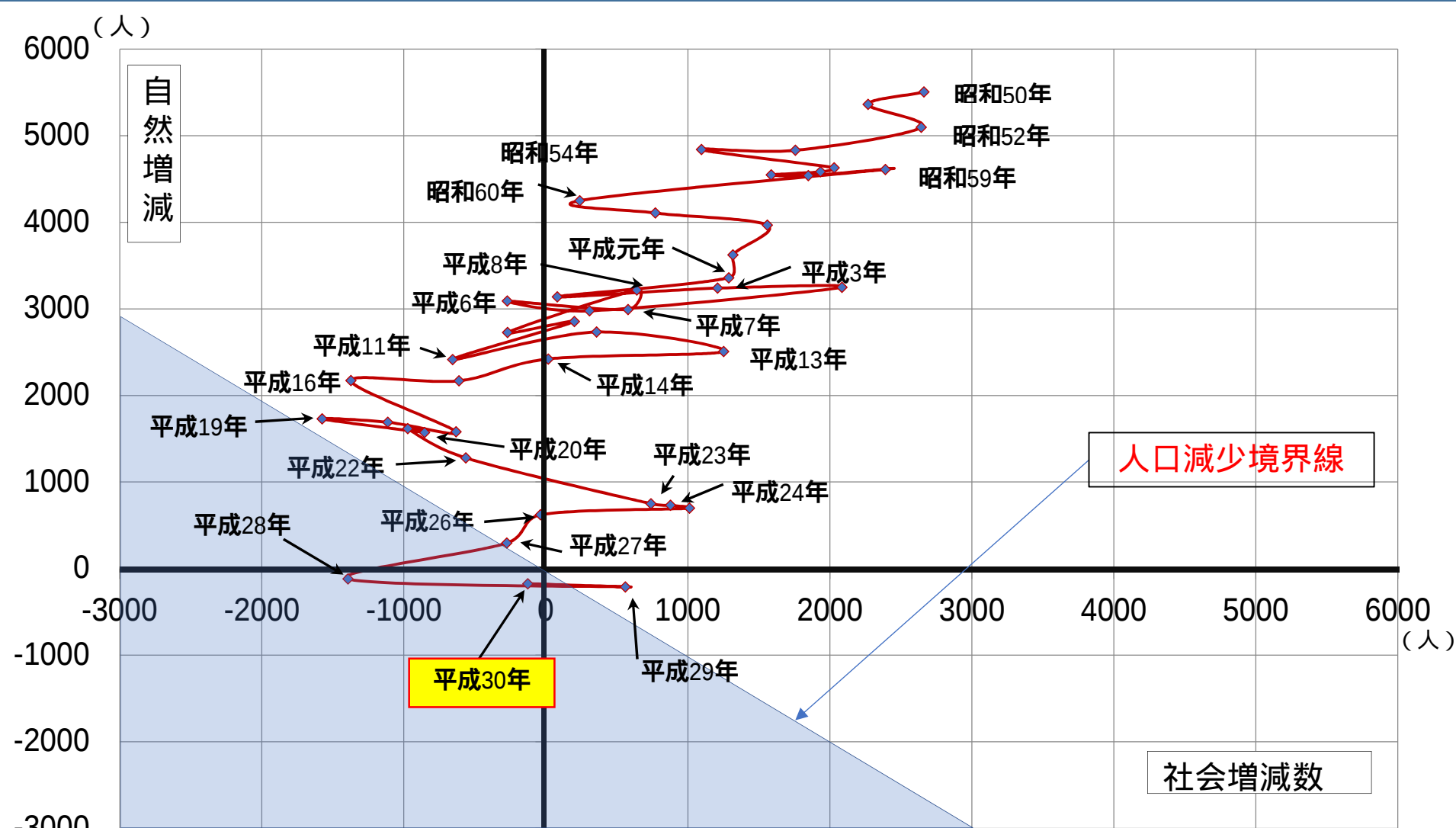
3

2.熊本市の年齢3区分別人口の割合



最新の社人研による将来推計では、令和2年（2020年）では生産年齢人口約2.2人で1人の高齢者を支えることになるが、令和32年（2050年）には生産年齢人口約1.7人で1人の高齢者を支えることになる。

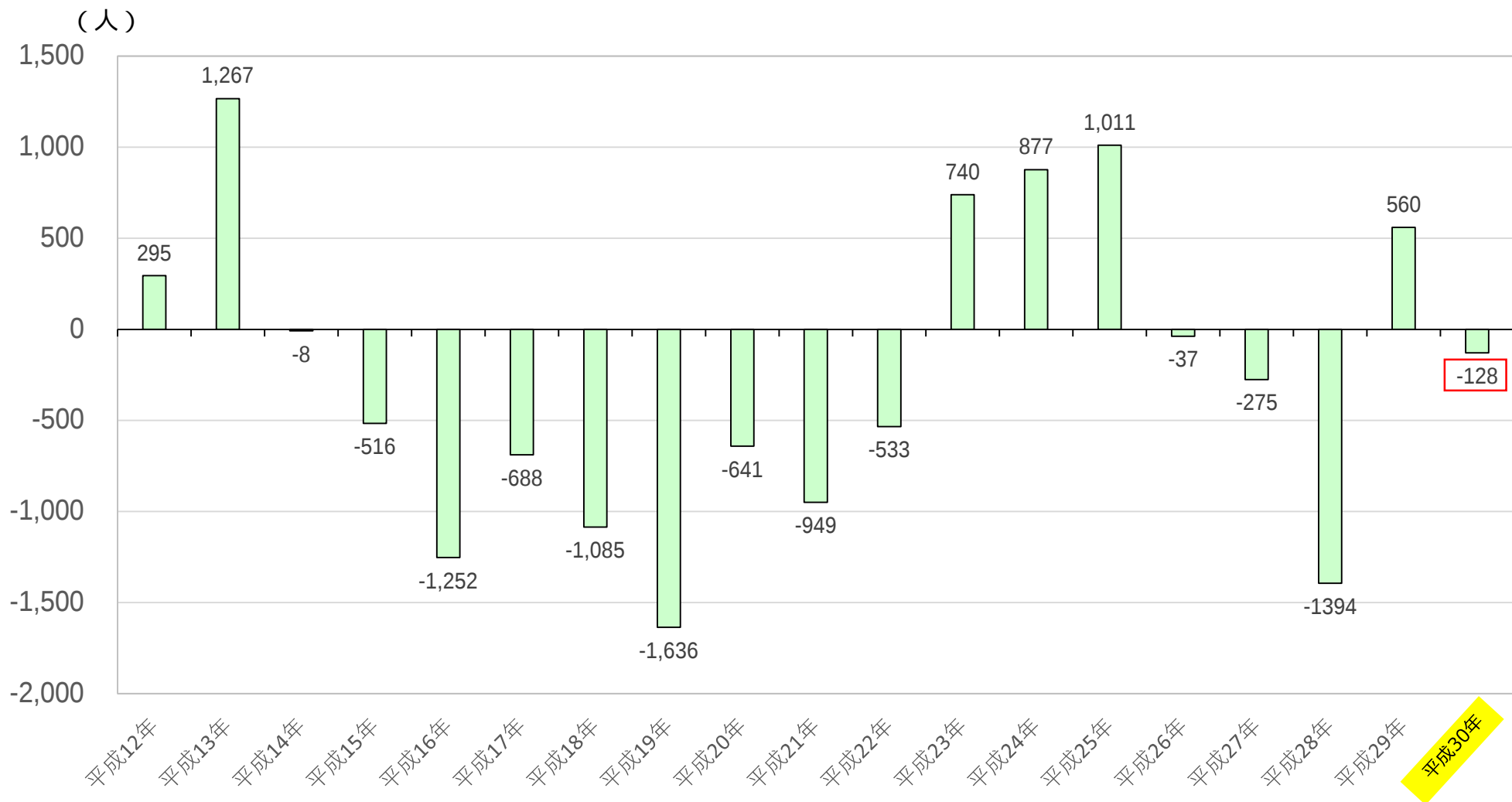
3.自然増減と社会増減の影響



(出典) 自然増減数は「熊本市の保健福祉」、社会増減数は「熊本県推計人口調査結果(年報)」を参照
平成30年の自然増減数のみ「熊本県推計人口調査結果(年報)」を参照

- ・ 自然増減については、H27年までは自然増にあったが、平成28年以降は自然減の状況にある。
- ・ また、社会増減については、平成28年に熊本地震の影響により社会減となったが、平成29年に社会増となった。
- ・ しかし、H30年は再び社会減となり、人口減少境界線を下回った。

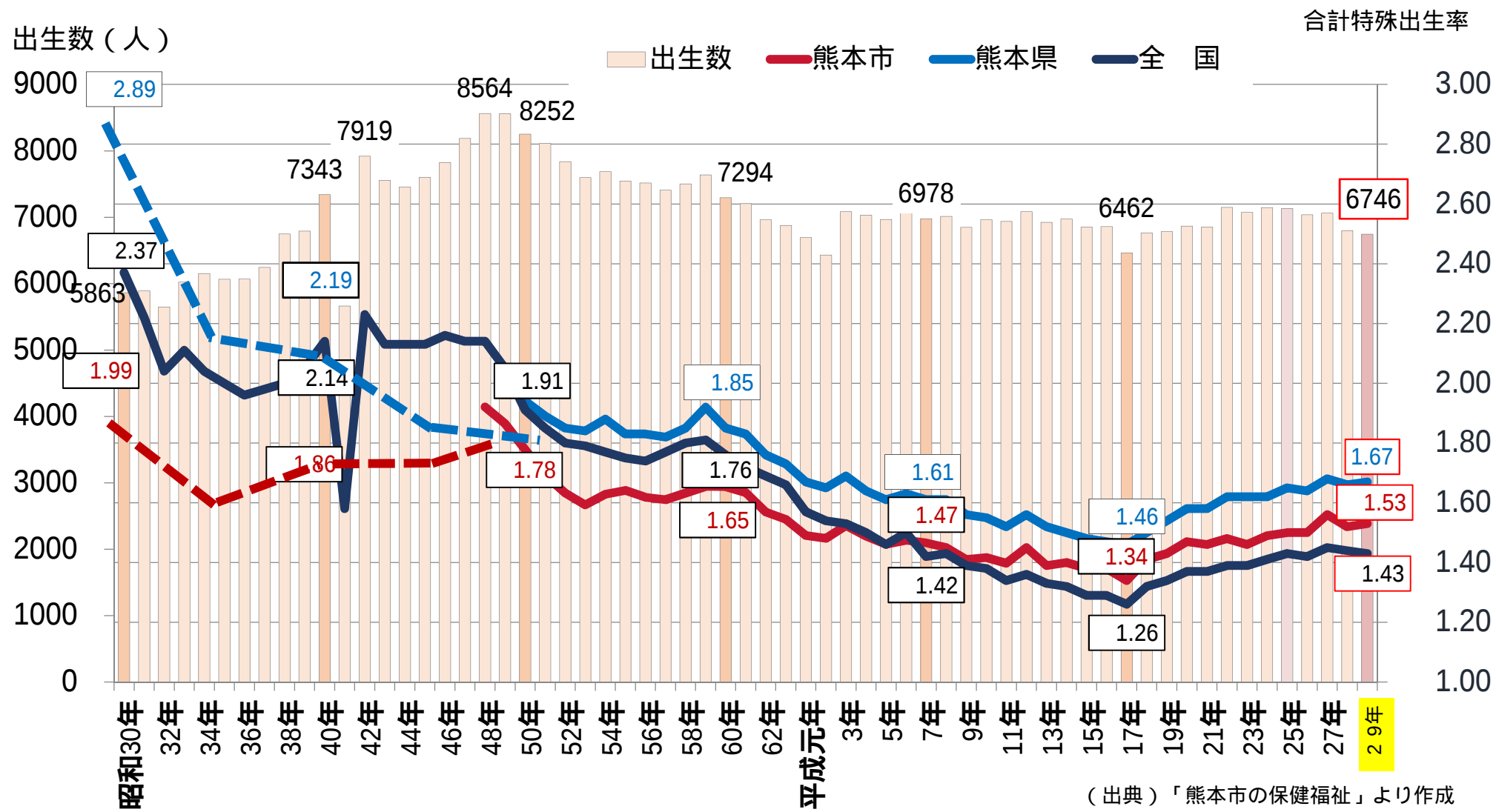
4.熊本市の社会増減



(出典)「熊本県推計人口調査結果(年報)」より作成

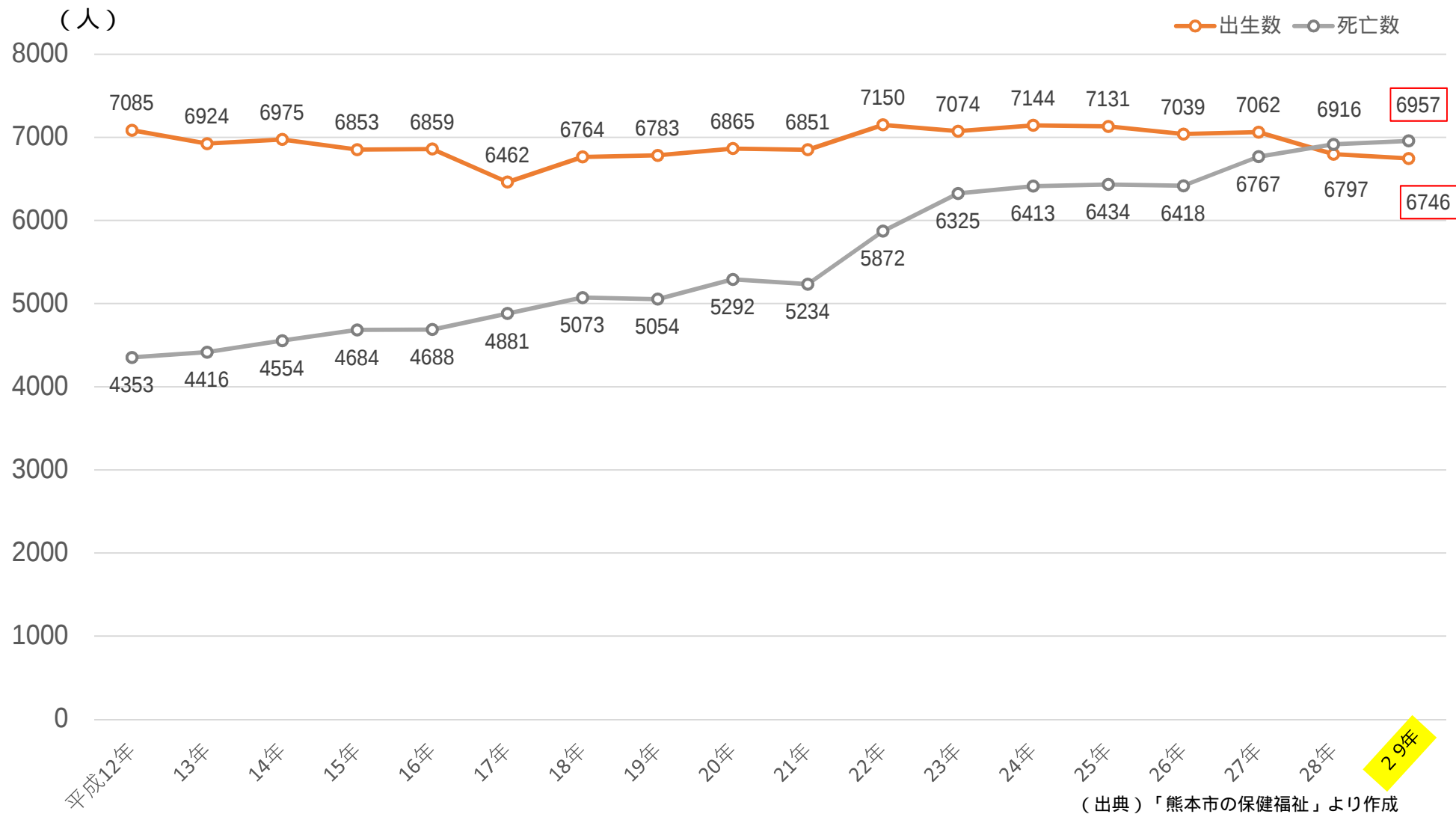
- ・ H27年からH28年にかけては熊本地震の影響で1394人の社会減となった。
- ・ H29年は560人の社会増となったが、H30年は128人の社会減となった。

5.熊本市の自然増減（ 出生数と合計特殊出生率の推移）



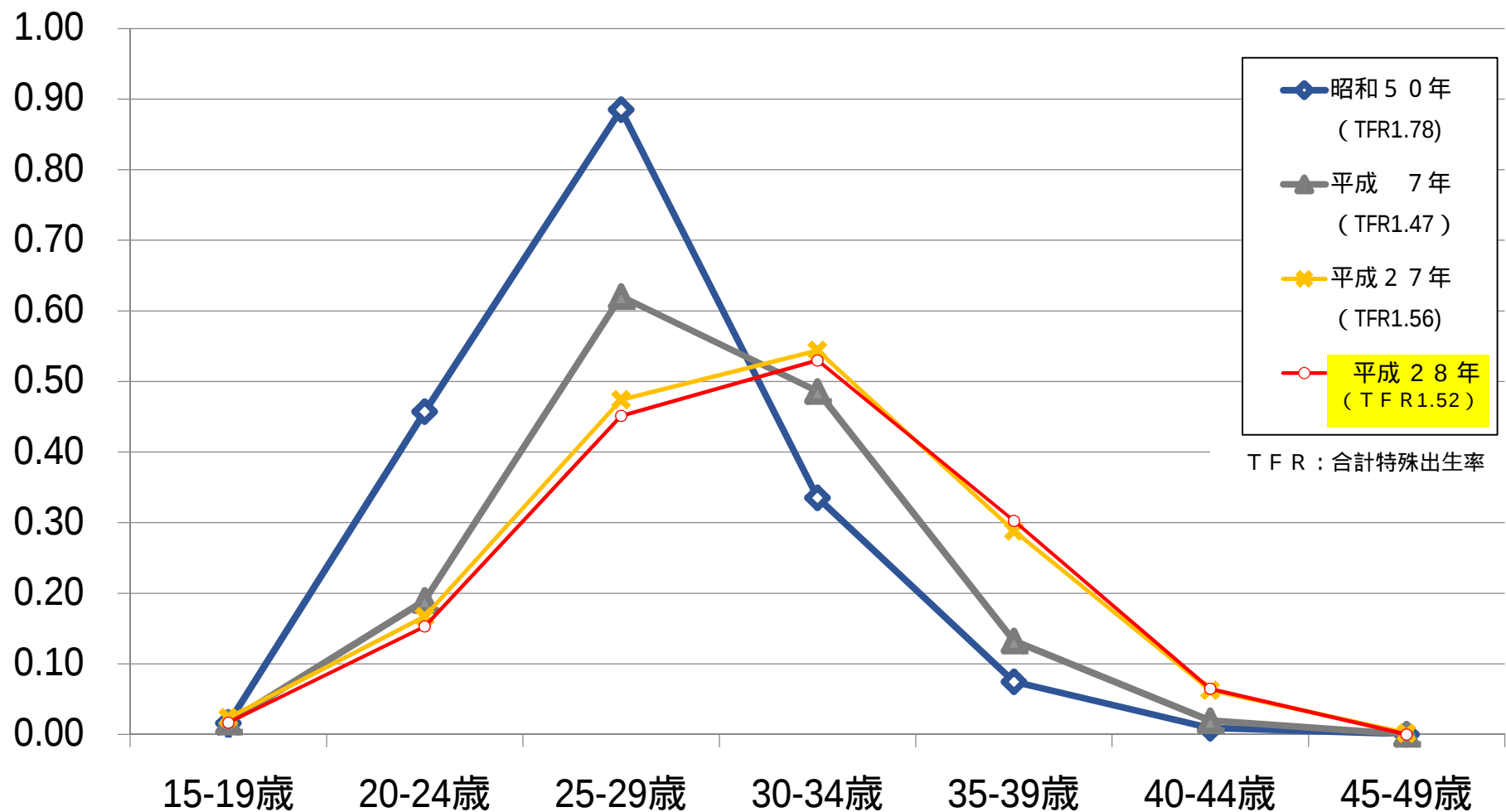
- ・本市の出生数は昭和60年から7000人規模で推移しており、平成29年度は6746人となっている。
- ・本市の合計特殊出生率は、平成17年以降上昇傾向にあり平成28年に一度落ち込んだものの、平成29年には1.53となり前年より0.01増加している。

5.熊本市の自然増減（ 出生数と死亡数の推移）



- ・ H27年までは出生数が死亡数を上回っていたが、H28年に1年間の死亡数が出生数を上回り自然減に転じた。
- ・ H29年も死亡数が増加、出生数が低下し自然減となっている。

5.熊本市の自然増減（ 年齢別出生率の変化）

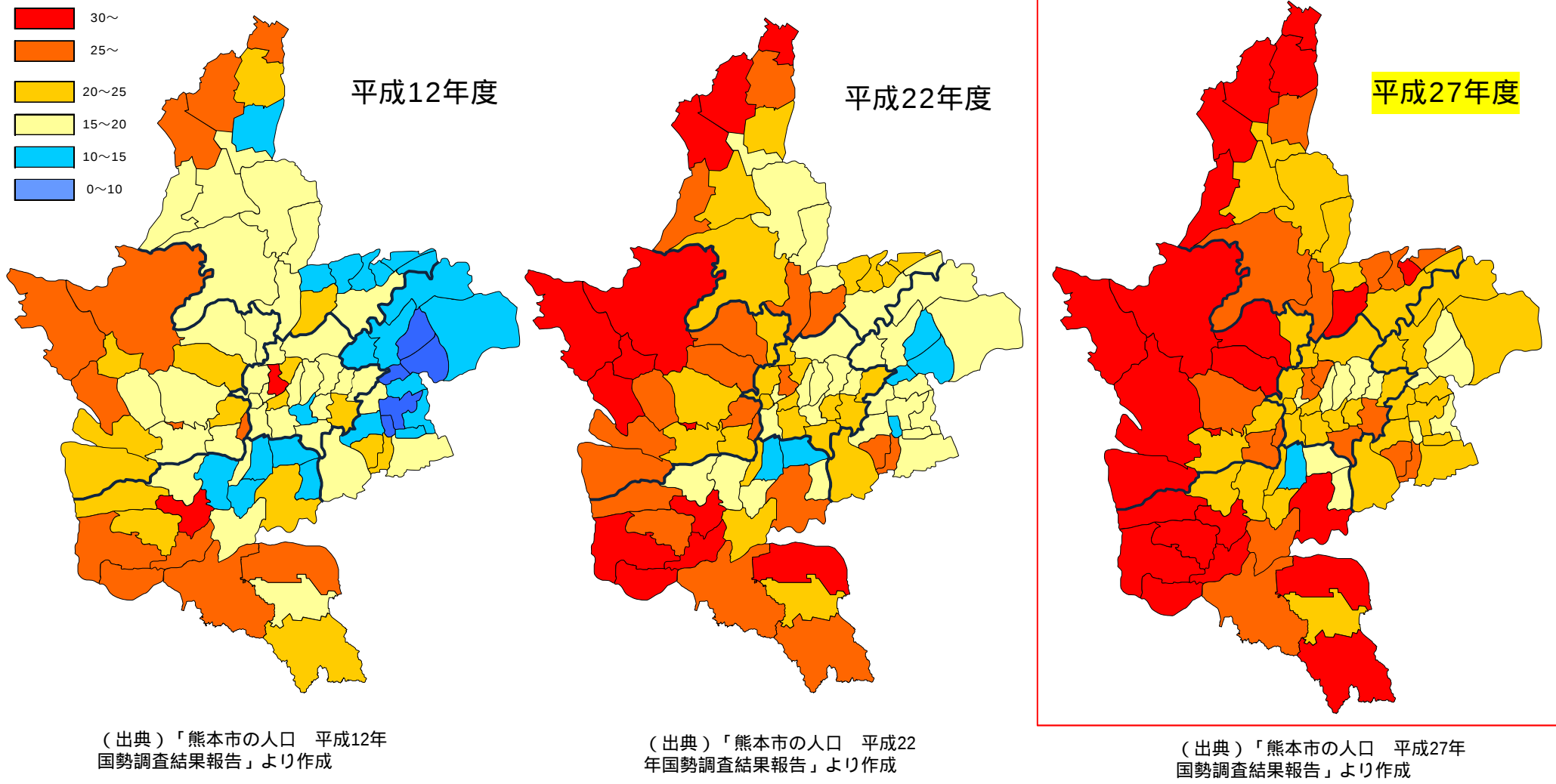


(出典)「熊本市の保健福祉」、「熊本県推計人口調査結果(年報)」より作成

・平成27年、28年の年齢別出生率と昭和50年、平成7年の年齢別出生率を比較すると、20-29歳の出生率が低下する一方で、30-44歳の出生率が上昇しており晩産化の傾向となっている。

6.校区別の老年人口割合

老年人口割合（％）



- ・ H12年からH22にかけては、ほぼすべての校区で高齢化が進展している。
- ・ H27においては、西部・南部・北部で老年人口割合が30%を超える校区が多く発現している。